

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	柏市高田・松ヶ崎地域ふるさと協議会
日 時	令和元年8月23日（金）午前9時50分～11時40分
場 所	高田近隣センター 会議室
参加者	ふるさと協議会役員等 : 9名 地域づくり推進部長 : 1名 高田近隣センター所長 : 1名 地域支援課職員 : 5名 地域づくりコーディネーター : 1名 合計 : 17名
次 第	別紙のとおり
意見 交換	<p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域懇談会は2年前にも各地域を回る形で実施されたが、職員にとっては大変だと思うが、再びこのように各地域を回つ形で実施してくれていることは評価できる。是非とも今後も引き継いでいってほしい。</li> <li>・6つのキーワードについて細分化されているが実際には1つの問題とも言える。</li> <li>・ふるさとづくりとは、ある場所（様々な地縁組織）に皆さんが心を寄せること。そしてその中でその場所に関わることでふるさとづくりが成り立ち、それを繰り返していくことが大切。</li> <li>・町会やふるさと協議会以外の場所で担い手不足という課題が出ていないのは楽しいからだと思う。一方、町会やふるさと協議会では「雰囲気がよくない」、「役員の負担が大きい」、「報酬がほしい」という声が出ている。これは正しい意見だが、この問題は町会やふるさと協議会だけで解決できる問題ではなく、行政も一緒に考えなければいけない問題だと思う。</li> <li>・昭和50年あたりに市民憲章が柏市にもできたが、それによる機運の高まりでふるさと協議会が設立された。ふるさと協議会には当時、旧住民と新住民が仲良くなるための潤滑油としての役割があったが、それから40年ほどが経ち、当時の市民憲章やふるさと協議会自体はそのまま良いかという問題があり、今の地域社会を活性化させるために合ったやり方に変えていくことを行政で検討していく必要があると思う。</li> </ul>

#### 柏市職員

- ・全くその通りだと思う。他地域でも出た話だがふるさと協議会は過渡期を迎えているのは事実であり、周りの社会や人間が変わっていく中で組織は変わっていないのが現状。しかし、それは行政からの押し付けるのではなく、地域の方々に考えていただく中で一緒に協力していくことを考えている。

#### ふるさと協議会役員

- ・昔は生まれたところがふるさとだったが今はその限りではなく、心のよりどころや生活の営みの場がふるさととなっている。
- ・町会の加入率は減少していきっており、現在は7割を下回っている。これが5割を下回ると行政と地域の連携はとれなくなるだろう。したがって、いかにして町会に加入してもらうかについて真剣に取り組んだ方が良いと思う。

#### ふるさと協議会役員

- ・高田町会では「いい雰囲気をつくる」については、その人に合った仕事を任せることや、祭りなどの際には全員で取り組むことを意識している。
- ・「役員の負担を軽くする」については、工夫ができない部分もある。毎年半分の役員が変わるが規約やマニュアルは用意しているので町会業務はちゃんと回っている。しかし突発的に出てくる民生委員児童委員や健康づくり推進委員の推薦などの業務には苦勞している。イレギュラーな存在に対して町会は負担を感じており、高田町会の場合、昔から住んでいる世帯は1,200世帯の内70世帯しかおらず、ほとんどが新しい住人なので町会長とは言えわからない。
- ・町会の中で誰がどんな資格（その委員に適した資格など）を持っているかについて、市で把握している範囲でも教えてくれれば委員推薦の際は助かる。
- ・「いっしょに活動してくれる仲間を増やす」については、祭りの際も現役の15名の役員だけではなく、子どもには太鼓を叩いてもらい、消防の方に警備をやってもらい、露店は9店舗出店してもらい、OBの役員にも手伝ってもらうなどして、当日のスタッフは130名ほどになった。その結果賑やかさが増し、スタッフも「疲れよりも嬉しさを感じた」と言っていた。これは「若い世代と繋がる」と

もつながると思う。

- ・6つのキーワードについては、この全てが連動していると思う。

#### ふるさと協議会役員

- ・担い手不足は今まで通りやっても平行線のままであり、こずっち会議などの地域と学校の連携の中で地域に住んでいる人全体の中で人材を発掘していくことが必要で、地域の担い手は必ずしも役員でなくてもよいと思う。
- ・ふるさと協議会は外部の団体との連携はあまりなく、ふるさと協議会自体があまり知られていないというのが現状。もっと若い人が興味を持てるようなことを発信していく必要がある。
- ・こずっち会議の結果についての詳細を知りたい。

#### 柏市職員

- ・(こずっち会議の説明・結果、今年度の実施予定を説明。)

#### ふるさと協議会役員

- ・いずれ柏市ふるさと協議会連合会の場などで事例発表してほしい。

#### ふるさと協議会役員

- ・「役員の負担を軽くする」について、意志のある人は負担を感じる役割や業務にも自ら手を入れて変えていこうとするため、このキーワード自体が担い手不足を解決することにはつながらないと思う。
- ・活動に携わった人が「良かった」と思えることが必要であり、そう思わせることは難しいと思う。
- ・支えあい活動でも支えられる側は感謝するが、支える側も「良かった」と思えることが必要だが、我が国の社会では奉仕することに対して社会的に認められたりステータスが上がることはない。キリスト教の社会では奉仕が前提となっているが、仏教ではその概念がない。行政でも活動している人に対して日の当たるようなことを考えていってほしい。
- ・有償にすることは「アメを与える」ことであり、長続きすることには繋がらない。あくまでも感動したり感銘を受けたりすることが必要であって、そのつなぎとして考えた方がよいと思う。

#### 柏市職員

- ・(6つのキーワードができた経緯をより詳しくご説明。)
- ・平成30年度の地域懇談会では「担い手不足」に焦点を絞って、ふるさと協議会役員と市職員で意見交換を実施した。
- ・市内を4ブロックに分けた上で、高田であれば「北部エリア」として、エリア内のふるさと協議会から役員に数名ずつ集まってもらい、「担い手不足」の原因について意見を出し合ってもらった。その中で様々なご意見が出たが、同年度の2月には地域リーダー研修にてそれらに対する解決策として具体的に揉んでいったものが、6つのキーワード。
- ・今年度の地域懇談会では、このキーワードを各ふるさと協議会にご紹介すると共に、その中からひとつでも各ふるさと協議会で取り入れられることがあればという想いで行っている。
- ・高田・松ヶ崎ふるさと協議会は20地域の中でも先進的な事例として他ふるさと協議会に対しても取り上げさせていただいている。(運営の見直し、役員間の役割交代、地域内全戸への避難場所に関するアンケートの実施、避難場所ごとの町会の役割分担など)
- ・高田・松ヶ崎ふるさと協議会で当たり前のことであっても、他のふるさと協議会からしたら「気づき」になることもあるので、担い手不足に関するもっと踏み込んだご意見や見解を伺えることも期待している。

#### ふるさと協議会役員

- ・6つのキーワードの中で最も大切なのは「いい雰囲気をつくる」だと思う。もちろん他のキーワードも大切だが、いい雰囲気はいいチームワークに繋がり、地域組織にとっていちばん重要だろう。
- ・ふるさと協議会は行政ではないが行政の延長線上の組織であり、「地域行政」と言っても過言ではないと思う。それをサポートすることが行政の役割。

#### ふるさと協議会役員

- ・「いい雰囲気をつくる」について、雰囲気づくりは町会活動を進めていく上での基盤になると思う。
- ・梅林町会では若い人たちを取り入れるために、町会役員が頑張っている姿や苦勞している姿を見せようと考え、大変だったがエンジョイパトロールを毎日役員で実施した。その結果、若い親世代の

方々にも町会活動にはなるべく参加しようという意識がでてきて非常に良い関係を築くことができた。しかし、役員の担い手の話になると「忙しい」「迷惑をかける」などと言われてしまい難しく、過去に役員になってくれた若い方いたが、なかなか長続きしなかった。

- ・町会内では有償化も話に出ているが、そうするとやはり行政からある程度の補助が不可欠となる。
- ・若い人たちとどういう形でお付き合いしていくかが町会の中での悩み。

#### ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会に対しても町会に対しても、市からの補助を広げていただけるのであればありがたい。
- ・ふるさと協議会同士、または町会同士でもそれぞれ活動には格差があるはず。行政連絡事務交付金は世帯割だが、それぞれの支出は世帯数ではなく活動に見合ったものにしていただくことも検討していただければと思う。
- ・高齢化は深刻で、高齢者から若い方に声を掛けることも現実的には難しく、若い方々同士での活動も必要だと思う。
- ・町会内では10年に一度くらいのペースで、40～50軒ほどの規模の開発が行われており、10年前に転居してきた方と20年前に転居してきた方とは世代間のギャップがある。逆に言うと各世代が均等に居住しているとも言えるが、世代間のギャップは大きいように感じる。

#### ふるさと協議会役員

- ・今年度より松ヶ崎町会で町会長を務めているが、昨年度まで務めていた副会長とは100対1くらいの割合で町会長には大量の連絡や情報が入ってきており、大変さを感じている。
- ・日々、町会に関係ないことが無いくらい会議や行政からの連絡が入ってくるので、各町会長には感心する。
- ・担い手不足について、担い手を探すことに私は一番苦勞している。民生委員児童委員の選出も、町会内全体に「業務が大変」というイメージが知れ渡っており、話もせず断られてしまうことが多々あった。
- ・委員の活躍や業務内容をアピールできれば、大切さを知ってもら

うことができ、新しい地域づくりにつながると思う。

- ・役員の言う「大変だ」は、周りの方はその何倍もの大変さとして受け取ってしまうので、町会内の雰囲気づくりは大切にやりがいがある。
- ・夏祭りの時に開催の判断をするにあたって、町会のみなさんが励ましてくれて嬉しかったし、「やってよかった」という声を掛けてもらえると判断したかひがあった。
- ・団塊の世代は意外と時間がないことを知り、若い世代を育てていく必要性を感じた。
- ・町会に携わって、地域で女性陣がご活躍されていることがわかった。

#### ふるさと協議会役員

- ・香取台町会では入居順に町会長に任命されていくが、10年ほど前に町会長としてふるさと協議会の役員に就任した際に、はじめてふるさと協議会の存在を知った。
- ・「ふるさと協議会を知ってもらおう」について、多くの方がふるさと協議会に活動に携わることがあっても、行事を運営する側にならないと理解ができないこともあると思う。友人も文化祭などには参加してくれるが、役員になることは難しいと言われてしまう。
- ・児童委員も探しているところだが、若い方々の中には興味があっても「任期を全うできない」「どうせやるならちゃんとやりたい」とのことで断られてしまう。
- ・香取台町会はポツポツと家は建つが高齢化が深刻であり、今後も支えあひは必要となっていくと思うが、「自分は大丈夫」という意識を持っている方が多く、困っている方のSOSを見つけるのが難しい。

#### ふるさと協議会役員

- ・新しい家が建ってもその方は前に住まわれていた方とは全く関りのない方の場合が多く、入居後に孤立してしまうこともあるので、若い方にとっては住みづらい地域になってしまっているのかもしれない。

#### ふるさと協議会役員

- ・担い手不足は「結局一本釣りしかない」という結論となってしまう

が、昔は60歳を越えたら定年だったが今は70歳まで働く方もおり、70歳まで働いた方がリタイアした後に地域活動に携わる意欲があるかについては難しいところがあるだろう。

- ・市民からの「町会加入は任意なのか？」という問合せがあった場合、「任意組織だから」と言われてしまうとほぼ入らないだろう。行政では「できれば加入していただいて地域社会に貢献していただきたい」という案内・発信を徹底していただきたい。

#### ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会と言うよりも、町会の担い手不足が深刻だと思う。
- ・松ヶ崎町会の役員は昔からの氏子でほぼ回しているのが現状。
- ・「役員は大変」という方は多いが、本当に大変なのは町会長だと思う。
- ・いい雰囲気づくりについては、やり方はいろいろとあると思うが大前提だと思う。

#### ふるさと協議会役員

- ・町会としてやることとふるさと協議会としてやることは同じようなことだが、若干意味合いが変わってくると思う。
- ・現役の頃は建設業で勤めていたので、行政に対しては常に「請け負け」だったが、今取り組んでいる担い手不足については、同じことを同じ方向に向かって取り組んでいく仲間だと感じることができるようになってきている。お互い立場は違うが、一緒に解決策を考えることができればいいと思っている。

#### 柏市職員

- ・担い手づくりにはいい雰囲気づくりが大切ということを各町会が言えるのは高田・松ヶ崎地域だからこそだと感じた。
- ・南部地域こずっち会議の概要説明、ご報告等。(こずっちニュースレター参照)
- ・町会等への加入促進について、戸建て住宅が中心の町会と集合住宅が中心の町会で加入率に開きがあることから、加入率の算出方法を変えていこうかと検討している。今年度については、大型マンションへの町会加入促進や町会設立の促進に力を入れている。
- ・したがって単純に町会脱退者が多い訳ではなく、新しい集合住宅への転入者が町会等に参加しないままになってしまっているケー

スが多いと思われる。

#### ふるさと協議会役員

- ・町会等への加入率について、戸建て住宅と集合住宅で色分けすることはできるのか。
- ・全体の加入率だとこのままだと50%程度になってしまい、転入者は「半分なら入らなくてもいいか」と思ってしまうだろう。
- ・加入率については加入促進につながる形で算出方法を考えていただきたい。それに伴って地域支援課職員の増員も検討してほしい。(笑)

#### 柏市職員

- ・色分けまでは難しいと思う。
- ・過程の数字は出ており、協働を考える会が出しているものと戸建て住宅の加入率は約85%だったかと思う。

#### ふるさと協議会役員

- ・転入者に町会加入を勧める際に役立つのはごみステーションに関する話。町会員でなければ利用できないとは言えないが、なんとなくみんなそういった雰囲気になっている。
- ・「町会に入らないと困りますよ」くらいのことであれば言ってもいいと思う。

#### ふるさと協議会役員

- ・転入者から「町会とかあるんですか？」と聞かれることがよくあるが、行政では町会等への加入について「任意」という言葉は使わないでほしい。任意であることは事実だが、任意と聞くと「入らなくてもいい」と思ってしまう。
- ・町会内での募金の集金でも「任意」という言葉を使うと集まる金額が減っていったが、使うことをやめると徐々に金額が戻ってきた。

#### 柏市職員

- ・10年ほど前、行政で「町会には入って下さい」とは言いづらい時期があったが、今では「町会は必要なものなので入って下さい」と言って市民の方にはご案内している。今後もより言葉には気をつけて対応する。

ふるさと協議会役員

- ・ 宅建協会，柏市ふるさと協議会連合会，行政の間での協定があるが，宅建協会側では「町会に入ることは義務である」と言ってくれているとは思っているので，行政でも「義務」という言葉は使えないかもしれないが頑張ってもらいたい。
- ・ 地域の課題を検討する際に，ふるさと協議会，社協，柏市，教育委員会の四者が一体となった会合などがあつたほうがよいと思う。

柏市職員

- ・ 行政としても社協との意見交換は大事だと思っており，この地域懇談会についても地域によっては社協職員が出席している地域もある。
- ・ 社協と地域支援課でも月に1回情報交換として会合を行っている。
- ・ 社協の相談窓口が5か所の近隣センター（田中，松葉，豊四季台，光ヶ丘，高柳）にできており，週に3回社協の職員が来て福祉に関する相談を受け付けている。地域の福祉活動の支援も行っており，社協としては段階的に増やしていくことを検討している。

ふるさと協議会役員

- ・ 学校評議会から学校運営評議会への体制変更など，今後も地域と学校の連携はより強くなっていく必要がある。そのためにも教育委員会との連携は欠かせないだろう。

柏市職員

- ・ 行政からすると教育委員会との連携の方が難しく，むしろ地域から学校と繋がっていただき，我々行政も繋げていただきたいと考えている。

ふるさと協議会役員

- ・ 小学生が行う地域学習の対象として，ふるさと協議会などの地域活動を行う団体も対象として受け入れることも良いと思う。地域活動での地域活性化を子どもたちに学ばせることで，その親への良い影響も見込めると思う。